

フジかフチか？

富士山の名称は、フトニのキミ（7代孝霊天皇）の36年の時に名付けられました。アスス463年、西暦では約AD78年（箸墓アスス630年をAD245年基準として）の命名です。

『古事記』・『日本書紀』には、翻訳削除されていたのでした。ズボットちゃん切り、ひどいもんです。

フトニのキミは、フヂ（藤）のハナに拠って、山の新たな名前となさいました。

旧名は、ハラミヤマ・オオヒヤ

マ・カクヤマ・オオヤマ。

しからば、藤のヲシテ時代の表

記はどうか？  
用例を調べ

てみましょう。

32、24・フチノハナ。

$$\begin{array}{c} 3 \\ 2 \\ - \\ 1 \\ \bullet \\ \text{フシ、} \\ 3 \\ 2 \\ - \\ 2 \\ 4 \\ \bullet \end{array}$$

フシツル、 $32-25$ ・フシノヤマ。

と、出例が少ないです。藤の意味のフチとフシで、同音発音とすると、濁音になるわけです。清音表記で、補っての濁音としてなされていたとも考えられます。

そして、花の場合は「フチ」で、蔓の場合は「フシ」とラシテ区別をしたのではないかと考えられます。

ただ、用例が少ないので、強くは言えないかも、と言つ事です。

## 32アヤ、フシとアワウミミツのアヤ

(7代孝霊天皇～9代開化天皇)

32・1

### 7代フトニのキミ(孝霊天皇)

元年

時は、アススの428年の1月12日のことでした。七代目スヘラギのヤマトフトニ(孝霊天皇)さんは、アマツヒツキ(天皇位)を受け継がれましてご即位あそばされました。ヤマトフトニのアマツキミのイミナ(実名)はネコヒコさんです。

ネコヒコさんは、諸臣と合議のうえ、アメのミマコの子アマキミの弟の方のニニキネさんの、即位の式典の式次第に則(のつと)って、即位に臨まれました。そして、伝統の通りに、翌日には一般国民に即位の式典の会場を公開なさいますのでした。

そして、ご生母のオシヒメさん(五代カエシネ、孝昭天皇のミコのカスガラキミの娘さん)をミウエキサキとして奉り敬います。

昨年の、アスス427年の12月4日にクロタのイホトミヤ(奈良県磯城郡田原本町黒田、近鉄電車の黒田駅の近く、唐古・鍵遺跡から西に約1km、法楽寺が宮跡地。桃太郎伝説の故地。キビのエワカタケヒコ、トワカタケヒコ(32・2)にミヤコ(皇居)をお移しになられまして、アスス428年からハツコヨミを始められました。



2年(アスス429年)キサラキ(2月)12日に、キサキを定められました。シギのオオメの娘のホソヒメさんがウチミヤ(正皇后)になりました。また、カスガラキミの子のチチハヤの娘のヤマカヒメがスケキサキになります。また、トイチのマソラの娘のマシタヒメはココタエの位になりました。この他にウチキサキは四方と、また、オシモメもお四方入れられました。

3年(アスス430年)のハル(春)に、オオミナクチとオオヤクチの二人を共にスクネの位を授与なさいました。

同じ年の、ナツ(夏)には、ウチメの位だったヤマトクニカヒメが三つ子を産みました。三人ともヤマトの名を冠しまして、長女はヤマトモモソヒメです。長男はヤマトササセリヒコです。次女は、ヤマトワカヤヒメです。そして、生母のクニカヒメを、ヤマトのオオミヤメとして称(ただ)えました。

111年(アスス438年)フユ(冬)には、クニカヒメの妹のハエヒメをウチキサキになさいます。

113年 そつしましたら、113年(アスス440年)のシハス(12月)1日に、ハエヒメも三つ子をお産みになったのでした。男の子ばかりの三つ子で、1男はアワカタケヒコ、2男はヒコサシマ、3男はトワカタケヒコと名付けられました。生母のハエヒメはワカオオミヤメとして尊称が付けられました。

118年(アスス445年)の1月モチ(望月)に、ウチミヤ(正皇后)のホソヒメさんがミコのヤマトネコヒコ・クニクルさん(イミナはモトキネ、後の八代孝元天皇)をお産みになりました。

255年(アスス452年)の、1月11日の年中行事になっていたアカタヌシを召してのモノを賜う際(のちの徐目)に、ミコトノリを御出しになりました。フトニのスハラギ(孝靈天皇)はおっしゃいます。

『もしも、三つ子を一孕みで産む事があれば、ミカド(朝廷)に告げ知らせなさい。必ず、褒めて賜りものをつかわすことにします。』

この理由は、生まれ出でたるイノチ(生命)を大切にするためです。

はるか昔、アマテルカミのみ孫の、十代アマキミのニキネさんは、おキサキさんのコノハナサクヤヒメとの間に三つ子を儲けられました。それから、ずっと三つ子の誕生を聞いた事ありませんでした。今、私が三つ子を儲けました。ここで、ほのかに聞くところでは、「間引く」と言って赤ん坊を殺してしまうような事があるとも。それは、いけないことです。今より後に、「間引き」がおこなわれてはなりません。今後は、「間引き」をすれば罪人として扱います。

我が子とは言いまでも、ヒトは「アメ(宇宙の中心)」からタネ(タマ)の降されて来た尊いものなのです。

ヒトの尊さを言うノリ(言葉)に、

「シカ・イヌ、チ(1000)より、ヒトひと」

といます。これは、タケミナカタのノリ(定め)です』

こうして、フトニのスハラギ(7代孝靈天皇)は人命尊重のミコトノリを発せられました。クニのツカサ(司)達は、国民に触れ知らせるために帰国の途につくのでした。

255年 翌日の255年(アスス442年)1月12日の朝に、スワのハフリ(タケミナカタの子孫)が、ハラヤマ(富士山)の王(絵)を献上しました。また、同時にシラヒケカミの子孫のアメミカケは、アワウミ(琵琶湖)の王(絵)を奉ってきました。フトニのキミは、大変面白い事だと、褒美を沢山授与なさいました。

程なくある日、フトニのキミはカスガ(156歳)におっしゃいますのでした。

ミツルナヒ

③ カスガは、カスガヲキミ(31・99、ヤマトタラシヒコクニ)のことです。6代ヤマトタリヒコクニ(考安天皇)の兄のカスガヲキミを指します。父上タリヒコクニの兄にあたるのがカスガヲキミです。

『われ、昔、この絵を見たのですが、合わせ考える事を十分にできなかったために、「タ(良い政のこと)」「を為し得ませんでした』

それは、六代タリヒコクニ（孝安天皇）の92年（アスス417年）のことに遡ります。

「スルガミヤのハフリが ハラの王（絵）をたてまつる（献上）」

ミコ（後の八代フトニさん、孝霊天皇）（取り上げて褒めるようにと）申せとも キミ（七代タリヒコクニ、孝安天皇）受けず『ホツマツタエ』31・102）

その時に、父君のタリヒコクニさん（孝安天皇）に、強くは主張し得なかったのです。アワウミ（琵琶湖）と、ハラミヤマ（富士山）との関連性について、まだ、思い至らなかったからでした。そして、フトニのキミ（孝霊天皇）はおっしゃいますのです。

『今、このヤマ・サワ（富士山と琵琶湖）の王（絵）をあわせて見ることは、ワリフタ（割り符）を合わせるようです。とても良い前兆であるかのようにも思えます。ハラミのヤマ（富士山）の良き草（長寿の薬草のチヨミクサ）が、500年前に噴火によって絶滅してしまっています。ニオウミ（琵琶湖）がヤマ（富士山）を潤すと、チヨミクサのタネが生えてくるかも知れません。再びチヨミルクサの再び生えてくる事を期待します』  
こうして、フトニのキミは、ふたつの絵を楽しまれるのです。

36年（アスス463年）の1月11日にモトキネ（のちの8代クニクルのキミ・孝元天皇）をヨツギとして定められます。フトニのキミは、み手ずからミハタオリトメをお授けになります。「カクのミハタ」の最終章のアヤがミハタオリトメです。そして、おっしゃいますのです。

『これはアマカミのラシテ（オシテ）であります。朝に夕に眺めて、よくよくその精神を感じ取ってください。そして、実情を良く考え合わせてタミ（国民）を教え導いて治めてください』

ミハタオリトメ（「カクのミハタ」の最終章を賜ったモトキネは、翌朝に、タミ（国民）に立太子の位の就任の儀式の設えを拜ませるのです）。

36年32・19 ヤヨイ（3月）の7日になりまして、7代スヘラギのフトニのキミ（孝霊天皇）は、ハラミヤマ（富士山）へと行幸なさいます。チヨミルクサの再生が起きているかも知れません。是非とも、尋ね見てみたい、と、思し召されたのです。

ハラミヤマへの道は、クロダ（奈良県磯城郡田原本町、黒田）から、カグヤマ（飛鳥）へと、そして、カモ（京都、下鴨神社、上賀茂神社）、タガのミヤ（多賀大社）を経まして、スワ（諏訪）からサカオリに至ります。ここに、タケヒテルはミアエ（こ馳走）を用意してお待ちしていました。

ミツルナビ

③ サカオリは何処か？ 40アヤ3ページに「サカオリの ミヤはむかしのハラのミヤ」と出例があります。

従いまして、大部分のサカオリは、富士山南麓のミヤであつたろうと推定されます。『ミカサフミ』4アヤ目の37053に「ギミをコエデに ナガラエと ヲヲヒヤマ、サの トシタミヤ サラにつくりて」と典拠がありますように、富士山の「サ」つまり南にあるミヤです。トシタミヤとハラミのミヤとサカオリは同所と言う事です。ですが、32アヤ19ページのサカオリだけは、富士山の北側であつたかも知れません。

これから、ハラミヤマ（富士山）の山頂に登山をなさいます。スバシリに下山をなさいまして、裾野を巡られて、ムメオオミヤ（浅間大社）にお入りになりました。ここに、カスガが教えを請います。

『ミネ（富士山中）に得ました丹（ミハ・三葉）のアヤクサ（珍しくそれらしい草）は、チヨミクサで御座いましょうか？』

諸ヒトが試食しようと、煮ましたが、余りにも苦いので、誰も食べ得ないでいます』フト二のキミも、感じ入られておっしゃいます。『ナカミネ(宇宙のアモト)のアテ(地球上での相当)はナカウミ(琵琶湖)ですね。それがハラミを潤してヤツミネ(富士山の中心峰)の裾野には水が豊富です。周りのヤツウミ(八湖)のうち、三つつが噴火で埋まっています。が、ハラミヤマの中は変わらないですね』そして、フト二のキミはおウタをお詠みになります。

なかはふり なかはわきつつ  
このやまと ともしつまりの  
このやまよこれ

この、御製のおウタをお詠みになりまして、ハラミヤマに新名称を付けたいものだとおっしゃいますのでした。

この時に、タコ(田子)の浦の人がフチ(藤)のハナ(花)を捧げて来ました。

このフチ(藤)の花に、ハラミのユカリを感じられたフト二のキミでした。そこで、また、おウタをお詠みになります。

はらみやま ひとふるさけよ  
ふじつるの なおもゆかりの  
このやまよこれ



この、御製により、フジのヤマの新名称が始まりました。ハラミヤマ、新名称のフジのヤマからの帰路には南路をおとりになります。そして、ムメミヤ(ハラミのミヤ)のハフリ(預かり人)のホツミ(のちの穂積)は、オシウト【詳細は未詳】の位に任じました。

イツ(ヲハシリ)と、アサマ(コノハナサクヤヒメ)と、ミコ【詳細は未詳】と、ヤマスミ(オオヤマスミ)の、4カミ(祖先の偉人)をヤスカワラ【詳細は未詳】に移して祭りました。

ミツルナヒ

③ ミコは誰か? アサマのコノハナサクヤヒメのあとに記されるべきお方としては、ニニキネさんではおかしいと思うのです。オシホミミさまでもおかしいし、一体どなたでしょうか?

この時に、タケヒテルが、タマカワのフミを献上したのでした。とても、重要なフミでした。カンタカラフミとして尊重されるものです。タケヒテルは、その昔の十代アマキミのニニキネの、長男のムメヒトさん(ハララクミ)の伝えを受けていました。それで、ミノリ(身を整える、方法)を得られておられたので、カミヨ(上代)のように長寿を実現なさっておられました。フト二のキミは、タケヒテルさんの子供の、タケトメをトミ(臣)に求められるのでした。その弟のタケツツクサが、タケヒテルの家の祭りを継ぐ事になりまして、後のタケタ(後の武田)になります。タマカワのカンタカラのフミは、イツモ(出雲)に納め置く事になりました。

53年(アスス480年)に、西のクニに揉め事が起きました。そこで、勅任の執政官を遣わします。チノクチと、ハリマ(播磨)のヒカワ(加古川)に、インハヌシ(のちの忌部)にヤマトトサセリを副(そ)えて派遣しました。また、キヒ(吉備)のカンチ

(上道)には、アワカタケヒコを派遣します。キヒ(吉備)のシモチ(下道)には、トワカタケヒコを派遣します。そして、拘(こだわ)りの問題を解き分けさせて平安を回復しました。(これが、のちに桃太郎伝説に受け継がれます)

イササワケ(敦賀)には、ヒコサシマを勅任の執政官として派遣して、コシクニを治めさせます。

76年(アスス503年)のキサラキ(2月)10日に、フトニのキミが崩御なさいました。118歳でした。ミコのクニクルさん(八代孝元天皇)は、モ(喪)を48日間務められまして、トミトトム(仕える臣下は、元のように)。こうしてさらに、6年間にわたってお食事のお供えを、おわします如くに続けられるのでした。こうして、敬いを為されておられるうちに、トミも世を去るのでした。クニクルさん(孝元天皇)は、カリト(飯のミヤコ)を立てるのみにて、ヲヤに仕えるまことの篤いお方であられました。

## 8代クニクルのキミ(孝元天皇)

時は、アスス504年1月14日に、クニクルさんはアマツヒツギ(天皇位)を受け継がれまして、ヤマトクニクルのアマツキミと名乗られます。アメのミマコ(十代アマキミのニニキネ)の即位式を前例となさいますのは、常のごとくでした。翌日には、即位式の設えをタミ(国民)に公開なさいます。タミは拝見がかなうのでした。

生母のホソヒメさんを、ミウエキサキとして尊びます。

12のツホネ(お局)のおキサキさんを立てられました。

4年(アスス507年)のヤヨヒ(3月)に、新しいミヤコ(新皇居)のカルのサカイハラ(橿原市見瀬町、近鉄電車の岡寺駅の近く)に遷御になりました。

5年(アスス508年)のナツ(夏)にウチキサキのウツシコメが、ミコをお産みになられます。ヤマトアエクニ・オオヒコさんです。

6年(アスス509年)のナツキ(9月)6日にイホトミヤ(孝霊天皇)のオモムロ(ご遺体)をムマサカのミササキ(奈良県北葛城郡王寺町本町、片岡の地)に、お納めします。

7年(アスス510年)のキサラキ(2月)2日に、ウツシコメさんがウチミヤ(正皇后)になられます。また、兄のウツシコヲ(後に物部氏)はケクニトミに任じられました。

この年、12月の1日(初日)の日の出と共にウツシコメさんがお産みになられたミコが、ワカヤマトネコヒコのフトヒヒさん(後の開化天皇)でした。

9年(アスス512年)のナツ(夏)に、長雨が降りました。40日も降り続きヤマシロ(山城)の田圃が浸水します。アワウミ(琵琶湖)も洪水になりまして、早苗はミモチ病に侵されます。人々からの嘆きの告げに、八代クニクルのスハラギ(孝元天皇)は晴れを祈る勅使のミケヌシ(ラミケヌシ)を使わされました。ミケヌシは、アワクニのミヲ(高島市安曇川)に赴いて、タナカカミを祭ります。(田中神社)ここに、晴れを祈る「カセフ」の祭典をおこなうのでした。「カセフ」は、オオナムチのイツモ(出雲)のタナカでの祭りに拠るものでした。【詳細は未詳】ミナツキ(6月)16日に祭りがおこなわれます。フシクサ(教えのクサ)の守りによりまして、タ(田)にミケヌシが額ついて祈りました。そうしたら、イネ(稲)は蘇えて若やぐのでした。アキ(秋)には実りも充実して、ミツホ(収穫)も良くなりました。タミのカテ(食料)も増えて、賑わいを取り戻しえたのでした。ミケヌシはオホミケヌシの尊号をもって称(ただえ)えられました。

カセフの祭りを、年毎にする事になります。ツクシ（九州）のナオリと、イツモ（出雲）と、イセ（伊勢）にも、ハナヤマ（山科）にもおこなわれます。

11年（アスス514年）のヤコビ（2月）のモチ（満月）にトトヒメが生まれます。共にミユキ（行幸）に連れて、ヘソキネ（ウツシコラ）の家（後に物部氏）のヤマトイケスに向かわれました。ヘソキネは、饗宴を用意して持て成します。ヘソキネの娘のイカシコメ（後にイキシコメ）が給仕に出てきまして、ウチキサキにと宮中に召されました。イカシコメさんは14歳でした。

13年（アスス516年）の1月3日に、イカシコメさん（後にイキシコメ）がミコのオシマコト（ヒコフト）をお産みになります。

14年（アスス517年）のフツキ（七月）に、ハニヤスメさんがミコをお産みになります。ハニヤスビコのイミナ（実名）タケハルさんです。（後に、ハニヤスビコの乱を起こす人です）ハニヤスメさんは、カウチ（アオカキカケ、アウアモロの子孫）のアオカキカケの娘さんでして、メのオシモの位でしたので、ウチキサキの位に上がられます。

22年（アスス525年）1月12日に、立太子が定まります。ヨツギ（世継ぎ）はフトヒヒさんです。ワカヤマトネコ・フトヒヒさんは、後の八代開化天皇です。

さて、オシマコトのミコ（皇子）はオクチの妹のタカチメ（タカチヒメ）との間にウマシウチを儲けます。ウマシウチは、キ（紀の国）のウツの妹のヤマトカケヒメを娶ります。そして、産まれたのがタケウチです。

57年（アスス560年）のナカツキ（9月）2日に、七代スヘラギのクニクルさんが崩御なさいました。117歳でした。ミコのフトヒヒさんは、モ（喪）を48日なさいます。そして、生きませる如くのままにミアエ（お食事）を供えます。モの48日が過ぎて、マツリコトをお聞きになられます。6年後には、オモムロ（ご遺体）をツルギシマのミササキ（剣池のみささぎ。近鉄電車の橿原神宮前駅から、東に歩いて8分で剣池が見えます）にお納めするのです。ナツキ（6月）24日にめともやむなり。（お仕えしていた人々も去って行きます）

### 9代フトヒヒのキミ（開化天皇）

時はアスス560年の、フユ（冬）のメツキ（10月）の12日でした。

フトヒヒさんは、九代スヘラギ（開化天皇）に即位なさいます。ミヤコ（首都）は、カスガ（奈良市）のイサカワ（奈良市本子守町、率川神社のところ）にお決めになりました。フトヒヒさん51歳の事でした。

ネツキ（11月）の12日にアマツヒツギへの即位の儀式を挙行なされます。ワカヤマト・ネコヒコのアメのスヘラギとされました。

翌日には、即位の祭典の設（しつら）えをタミに公開なさいます。

ハハ（実母）のウツシコメさんを、ミウエキサキとして尊ばれます。また、フトヒヒさんには、ソフ（12）のツホネ（局）も既に揃っておいででした。

アスス561年のキナエ（21）の年を、フトヒヒのキミの初年となさいます。

7年（アスス567年）ハツ（1月）12日に、イカシコメさんをイキシコメさんと名前を変えてウチミヤ（正皇后）にお立てになりました。イカシコメさんは、先のクニクルのキミ（八代孝元天皇）との間にオシマコトのミコ（皇子）を儲けておられました。

イキシコメさんへの名前替えには、経緯がありました。フトヒヒのキミが、イカシコメさんを召そうとなさいます。これに際して、ミケメシ（オミケメシ）は、イサメ（諫言）を

申し上げていました。

『キミはお聞きでありますでしょうか？』

カミヨ（上代）のところに、シラウトとコクミがハハ（母）を犯してミチを乱した事件がありました。ここから、多くの混乱が生じたのでした。

その、ガナ（大きな誤り）が今に起きようとしています。

キミよ、シラウトやコクミのような事をなさいますのでしょうか？

ミツルナビ

③ 大祓の祝詞にある「白人・胡久美」の罪のことです。ヲシテに詳しく記されています。シラヒトやコクミ達です。世の乱れを引き起こす罪です。（ホ6 - 11 - 13・ホ6 - 17 - 22・ホ7 - 1 - 19・ホ8 - 1 - 5・ホ9 - 14 - 16・ホ9 - 21 - 23）

ガナ（大きな誤り）は大災害を引き寄せる事になりかねません』  
モノヘ（後に物部氏）のウツシコヲは答えます。

『ハハではなく、メイ（姪）に当たりますから問題にはなりません。その理由は、「イセのミチ」に拠るところのものです。メ（娘）はツギ（嫁い）で、ウミ（産み）のヲヤ（親）無し」と「イセのミチ」にあります。つまり、昔は確（たし）かに、オハ（おば・伯母）でありましたが、今はメイです。単なる親戚に過ぎません』

ミケヌシ（オミケヌシ）は、追及します。

『産む子のオシマコトさんが居られるのだから、義母でないとは言えないでしょう』  
ウツシコヲはさらに答えます。

『単に、連なっているだけの枝のひとつのオシマコトさんです。何故ならば、ハハが別人で異なるからです』

ミケヌシは、まだまだ追及します。

『ア（天空）にはツキ（月）は、たったひとつだけです。ハハ（母）はツキ（月）です。シモメ（他のおキサキさん）はホシ（星）です。この、ホシ（星）を召されようとしておられるのですよ』

深く嘆いて、ミケヌシは言葉を続けます。

『ヲランカミ（アマテルカミ）は、アメのミチをなされたのです。

世々のキミは、継ぎを受けられて長く治まって来ましたのでした。

今回のイクシコメさんのウチミヤ（正皇后）就任は、ミチを外していると言えます。

あなたはケクニトミ（31・70・85・89、32・36、36・17）です。最も重臣です。マツリゴトの誤りをおイサメして申し上げなくて、どうしますか！

阿（おもね）って、おべっかばかりでは、かえってキミをアナ（貶めてダメ）にするばかりです。心汚（きたな）しと言つもののです。

キミが如何にお考えになりますか？

我が身の祖先のヲヤカミのクシヒコ（ヤマトヲヲコノミタマカミ）も、守りを離れることになりましたでしょう。（ホ20 - 30 - 36、ホ23 - 86 - 99、ホ24 - 107 - 111）

汚（けが）れは、決して食（は）む事はしない、と、これはわが祖先のクシヒコの教えです』

ミケヌシは、クシヒコ同様に、職を辞して去って行きます。

フトヒビのキミ（九代開化天皇）は、やはり、イカシコメさんのウチミヤ（正皇后）就任を変えませんでした。イカシコメを、イクシコメと、一音を変名にただけでした。

ミケヌシとその子は、ツクミ（隠棲）をして、地方にひっそりと暮らすのでした。

コモリさんの妻だった縁です。先祖ゆかりの地の、チヌのスエのところです。陶荒田神社、10アヤ44ページに「スエツミが イクタマヨリメ」33アヤ25ページに「スエツミが イクタマとつむ」つまり、須恵器の生産基地のところです。

7年（アスス567年）のシハス（12月）の13日に、ミコ（皇子）が誕生します。ユギリ（カツテカミの子孫）の娘のタケノヒメさんが、ユムスミさんを産みました。イミナ（実名）はコモツミさんと申し上げます。

8年（アスス568年）ヤヨイ（3月）には、カスガ（五代カエシネ、孝昭天皇のミコのカスガラキミの子孫）のオケツメさんがスケキサキの位にあつて、ヒコサマス（イミナはアリスミ）のミコをお産みになりました。

10年（アスス570年）サ（5月）の12日に、ウチミヤ（正皇后）のイキシコメさんが、ミマキイリヒコ（イムナはサソニエ）さんをお産みになられます。のちの、十代スヘラギ（崇神天皇）になられるお方です。

ミナツキ（6月）の12日には、ヘソキネ（ウツシコヲ）をオトト（大臣）となさいます。またさらに、ネ（10月）には、ウツシコヲをイワイヌシ【詳細は未詳】となさいました。

13年（アスス573年）のムツキ（1月）5日に、イキシコメさんは、ミマツヒメをお産みになります。

ウチメに召していた、カツキのタルミの娘のタカヒメが、サ（5月）のモチ（満月）に、ハツラフケ（イムナはタケトヨ）さんを産みました。

28年（アスス588年）のムツキ（1月）5日に、世継ぎが定められます。サソニエのミコ（ミマキイリヒコ）が、お世継ぎです。この年に、19歳でした。

60年（アスス620年）ナツ（夏）のウツキ（4月）9日に、フトヒビのキミ（九代開化天皇）はお亡くなりになりました。111歳でした。ミコのサソニエさんはモ（喪）に入られます。そして、48日の後にマツリコト（政治）を再びお聞きになるのです。近習のトミは留め置かれまして、ご生前同様の居ます如しのミアエ（お食事）をお供えます。

メツキ（10月）の3日になって、イササカのミササキ（奈良市油坂町、JR奈良駅から歩いてすべ）に、フトヒビのキミ（九代開化天皇）のオモムロ（亡き骸）をお納めすることになりました。